

---

## ◆平成27年度 第1回キャリア教育講演会

中学校1・2・3年、高校1・2・3年・職員・保護者対象

1 期日 平成27年9月29日(火) 12:45~14:15

2 講師 林 修(はやし おさむ)氏 (東進ハイスクール 東進衛生予備校 現代文講師)

3 演題「いつやるか？ 今でしょ！」

4 プロフィール・経歴

東進のCMでのセリフ「いつやるか？今でしょ！」が話題となる。講演では、やるべきことをグズグズと先送りして後悔・失敗することなく「今やる」ことの重要性を説き、豊富な知識と核心を突いた内容が幅広い層を魅了している。現在、難関大学向けの講義を中心に授業を行う傍ら、テレビ番組にも多数出演している。

### ■経歴・職歴

1965年 愛知県名古屋市生まれ

東京大学法学部卒業

現在、東大特進コースなどの難関大学向けの講義を中心に授業を行い、抜群の東大合格実績を誇る東進ハイスクール 東進衛生予備校の躍進に大貢献している。

主なレギュラー番組は、

『林修の今でしょ！講座』 テレビ朝日系列

『林先生が驚く初耳学！』 TBS系列

『ネプリーグ』『クイズ！それマジ！？ニッポン』 フジテレビ系列 など多数。

主な著書は、

『いつやるか？今でしょ！』 宝島社

『受験必要論』 集英社

『異端のススメ』 宝島社 など。

5 注意事項

・講師の著作権、肖像権に関連しますので写真撮影・録音・録画は御遠慮ください。

6 生徒の感想より

9月29日(火)、第1回キャリア教育講演会が実施されました。今回の講師は、東進ハイスクール・東進衛星予備校講師の林修先生でした。テレビ等でもおなじみの林先生が「いつやるか？今でしょ！」という演題で講演されました。当日は保護者297名の参加もありました。生徒感想の一例を紹介します。

今日の林先生の講演ですごいと感じたことは、90分という限られた時間の中で、自分の伝えたいことをユーモアを交えて簡潔に話されていたことです。何かを説明するときには必ずと言っていい程ユーモアのある具体例が入っていました。それでも、覚えていることは、ユーモアの内容ではなく、林先生が本当に伝えたかったことです。それがすごいと思いました。説明の後に必ず簡潔にまとめておられたのがすごかったです。(中略)今日の講演を聞いて、これから自分に何が求められているかを考えて生活していこうと思いました。

私はバスケットが好きで、試合等でうまくいかなかったところは、同じ状況をイメージしてやり直したり自分に足りないところを自主的に練習したりと、「自分で考えて行動に移す」ことが無意識にできていました。しかし勉強はあまり好きではなかったので、やらされている感じや、やらなければならないという義務感でやっていました。その結果、バスケットはどんどん成果が出たけど勉強はある程度までしか伸びませんでした。これが、「自分からやる」のと「やらされる」の違いだと思いました。(中略)これからは、バスケット以外にも自分で取り組めるものを探したいです。そして、そのために日頃の勉強で受け身になるのではなく、「積極的に自分で考えて行動できる」ようにしていきたいです。

今日は、林先生の話聞くことができとても貴重な体験となりました。まず、「自分で考える」ことが大切なんだと改めて知ることができました。私には臨床検査技師になりたいという夢があります。でも、その夢を叶えるための精一杯の努力はまだまだしていませんでした。これからは、勉強に対してもっと意識を高め、勉強も楽しめるよ

うにしていきたいと思いました。(中略)私は、勉強内容、勉強時間が全く足りていないので人一倍努力していかなければならないと実感しました。今日は普段めつたに聞けないような話をたくさん聞けて本当に良かったです。今後に生かしていきたいです。

私は林先生の授業を受けたことがあるのですが、授業以外でのとても人生に役立つ話を聞いて良かったと思います。私も、多分今まで人に言われたことをやるだけで、何となく有名な大学に進学できればという気持ちでいたので、改めて自分の目的や自分にできることは何なのかを考えることができました。大学に通い勉強することで、自分が第1象限に近づけるようがんばりたいと思います。(中略)また、「自分の高校時代にスマホがなくて良かった」と話されるのを聞いて、少しだけうらやましくも思いましたが、これが現代に生きる私達の利点でもあり欠点でもあるということを理解し、勉強習慣を見直したいと思います。



#### ◆平成27年度 第2回キャリア教育講演会

中学校1・2・3年、高校1・2・3年・職員・保護者対象

- 1 期日 平成27年11月10日(火) 13:40～15:20
- 2 講師 岩野 祥子(いわの さちこ)氏 (第42次・48次日本南極地域観測隊越冬隊員)
- 3 演題「未来を拓く南極観測」
- 4 プロフィール・経歴

1975年、愛知県豊田市生まれ。名古屋市の南山高校女子部を経て、京都大学に進学。二度の南極観測越冬隊の経験を活かして、南極の自然環境の厳しさや素晴らしさ等々を多くの方々に伝えるなど、「南極女子」として知られる元気科学者である。そのほか、東日本大震災被災地支援や防災士としての活動も経験。現在は農業に従事されている。

1975年 愛知県豊田市生まれ

2000年 京都大学大学院理学研究科修士課程修了

2000年11月～2002年3月 第42次日本南極地域観測隊越冬隊(地学隊員)

2005年 京都大学大学院理学研究科博士課程修了(理学博士)

2005年 株式会社モンベル勤務

2006年11月～2008年3月 第48次日本南極地域観測隊越冬隊(地圏隊員)

2011年 東日本大震災被災地支援

2012年 極地用防寒着「ポーラーダウン」開発

2014年 防災士としての活動を開始

#### 著書

『南極読本―隊員が語る寒冷自然と観測の日々』南極OB会編纂委員会編(共著)(成山堂書店)

『広辞苑を3倍楽しむ』岩波書店編集部(岩波書店)※「ペンギン」(P.92～93)の稿を執筆

『ちきゅうはかがやく』(写真提供)チャイルド社

#### インタビュー

『感動する仕事！泣ける仕事！』(第2期)⑧大切にしたい！自然のチカラ』(学研教育出版)

※南極越冬隊員の仕事紹介

『語りつぎお話絵本 ⑥助け合う人たち』(学研教育出版)

※「アウトドア義援隊出動！」の主人公として登場

その他、テレビ・ラジオ出演、雑誌(インタビュー、執筆)、新聞(インタビュー)、講演活動など

#### 5 講演要旨

まず、自己紹介を兼ねて、学生時代に測地学を探究するとともに、冬季はスキーに没頭されていたというお話をされました。そうした経験が越冬隊の採用につながっていったということで、生徒たちは一つのこと打ち込むことの大切さを感じ取ったようでした。

南極については、南極の厳しくも美しい自然、平均2kmにも及ぶという氷の厚さ、南極観測基地と砕氷船、基地内部の様子やそこでの仕事と暮らし、オーロラ、海中に生息するコケや地上に降り積もった氷の層から分かる地球の気候変動、オゾンホール、南極で多く発見される隕石のことなどを、貴重な映像を交えて、楽しく語ってくださいました。

生徒たちの進路についても多くの示唆をいただきました。地球の誕生からこれまでを1年に例えると80年の人生はたったの0.5秒、というお話や、南極の壮大な自然、ありのままの地球の姿に触れることで「地球人」である自分を意識するようになり行動範囲が広がる、というお話からは、「この0.5秒を無駄にしないために、自分が本当にやりたいことに積極的に挑戦していくことが大事だと思いました。」など、多くの生徒が刺激を受けていました。

